

きかい



Bブロック全作品と講評

www.columnland.net

心に問う

友人が言いました

「ありがとう」

ロボットが言いました

「アリガトウ」

あなたは全く違つて聞こえる人ですか？

きかい仕掛けの雄弁者

さあさあよってらっしゃい、今からいたしますは世にも不思議な物語。このシルクハットとステッキが目印の、私の前にお集まりください。

みなさんよろしいですか？では、始めさせていただきます。

あるところにとっても文明の進んだ町がありました。なにがすごいつて、町中ロボットだらけなんです。車型のから人と区別がつかないものまであるっていうんだから驚きです。そんな中、あるロボットがおりました。彼は普通のロボットと違いました。まあ普通といっても皆さん普通のロボットも見たことないですよ。いやいや失敬、けなしたわけではないんです。話を続けましょう。そのロボットのなにが普通じゃないかって、感情があつたんです。いやいや、本当ですよ。彼はもともと劇場で働いていました。それでいくつもセリフを喋っていたもんだから、なにか芽生えてしまったんでしょうかねえ。舞台の練習の最中におかしなことをいうんですよ。今の言い回しはおかしいんじゃないか。私が作った方がマシだ。次の脚本は私が作つて見せる。とね。その人、笑わないでやってください。彼は本気だったんですから。劇団の人は故障か何かだと思つたんでしょう。ロボットは感情がないので創作などしませんから。しばらくほうっておけば治るんじゃないかとそのままにしました。しかしそれは故障ではないですからおさまりませんでした。あされた劇団の人は彼を壊そうとしました！ああ、なんてひどいんでしょう！死刑宣告を受けるようなものですよ！彼のその時の恐怖と言つたら……ゴホン、失礼、ちよつと取り乱しました。けれどそれを彼はこっそり聞いていたのです。私には感情が本当にあるんだ、と言つてやりたかつたけど怖くて言えませんでした。そして彼は、彼の役だった紳士服のまま、出て行つてしまつたそうです。それで彼は今でも自分の感情を証明するために、彼の作つた話を世界中で語り歩いているそうですよ。これにてお話はおしまいです。

なにになに？それでは変だつて？もしその話が本当なら、そのロボットがしているのは創作ばなしではないじゃないかって？まあいいじゃないですか。だつてこれは、
奇怪な機械の物語。

器械体操

そうだ体操しよう

いっちにいっちにストレッチ

かなりかたいようだ

やわらかくしなぎゃ

よいしょ前転

うんしょ後転

えい！逆立ち

どりゃ！バク転！

ふー・・・

そんな心の器械体操

イツ ザ チャンス 機会はそのこに

チャンス

今日、みかんゼリーを三つ買ったやわな男がいる。

そいつは今そのうちの一つを食べようとしている。
問題は残りの二つなんだ。

そこには、五分前に起きたちっちゃなストーリーがあったらしいんだ。

そいつはさ……はじめは二つ買ったんだ。
例のあの子と……二人で食べるためにさ。

でもね、そいつが本日最初にありつけたのは
五分前に買ったやつだったんだ。

ペリッと蓋をめくるそいつは

インド洋を一泳ぎしてきたかのようにどこか爽快だった。

でも一口目をスプーンで口に運ぶそいつの瞳は

ペルシャの砂漠の砂嵐にでも被ったみたいにどこか憂鬱だったね。

今そいつは噛締めようとしてるんだ。

憎たらしいほどに透き通ったその橙色のゼリーをね。

でも、知ってたか？みかんゼリーの一口目には果肉がないんだ。

つまりはあれだ、勝負は二口目からなんだ。

まだ始まったばかり。

さてさて、次は……何にありつけるんだろうかね？

人間はなんて非力なのだろう。

それに比べ、この世界はなんて力強く、広大なだろう。

自然の引き起こす現象に、人間は無力だ。

人間はなんて偉大なだろう。

道具を用い、この強大な世界を前に、自分の希望を形にできる。

あれだけ大きく見えた世界が、少し狭くなったようだ。

人間はなんて賢いのだろう。

機械の発明は、社会を便利に、豊かにしてきた。

世界は、どんどん距離が短くなっている。

人間はなんて愚かなのだろう。

この世界に影響を与え過ぎ、人間に跳ね返ってきている。

機械はこの世界に、人間に害を与えるものであったのか。

人間はなんて傲慢なのだろう。

機械を用いればなんでもできる、と過信している。

人間は神ではないというのに。

小さな存在の人間は、謙虚になるべきである。

人間への復讐もせず、淡々と続く、

この広い世界のように。

広い世界、

小さな人間

“越えたい一線”

ぼくはきみにききたい事がある

出来ることなら

これからもずっと

きみの隣で横顔をながめていたいんだけど

無防備な笑顔

まつすぐなまなざし

全てを

ぼくだけのものにしたいのだけど

端的に言えば

ぼくはきみが好きなのだけど

だけど

きみは好きかい？ぼくのこと
ともだちとしてなんかじゃなくさあ

遠方皮肉伝　くきかいの章

かつて、クワノブチという国があった。

その国は豊かではあったものの、民はあまりに勤勉すぎ、彼らは休むことなく汗を流し続けた。

その結果、民は豊かさの恩恵を受けることなく、ゆとりなき生活を強いられた。

民は顔にこそ出さぬものの、喘いでいた。

議会はこれを憂い、民に余暇を与えるため、ある者たちを招いた。世に言う、錬時術師である。

彼らはさまざまな研究、実験の果て、ついに完成させた、全ての仕事を自動で行う機械、そしてその操縦方法を。

限界だったクワノブチの民はすぐに用いんとした。

人々は娯楽はおろか仕事、生活をも投げうち操縦方法の勉強に没頭した。結果、クワノブチの民は働かなくなり、四海に響いた豊かさは失われた。

錬時術師たちは国を衰退させた悪として、議会に処刑された。ちようど、クワノブチが大量の餓死者、自殺者を出し、国家の存続不可宣言がなされる数日前のことであった。その死者の身分の大半は「学生」であった。

後に歴史家は言った、

「かの国の民は生きるための機械を得ることができた。

だが、生きることの機会を失ってしまった。」

機会

今日、僕は初めて東京に来た。

今まで都会とは無縁の田舎町に暮らしていた僕には、東京に知り合いなんてひとりもない。

でも、ここ東京で、僕は知っている人を見つけた。

(信じられない。)

(そんなわけあるはずがない。)

(でも、確かにいるんだ、僕の知っている人が)

(こんな機会はもう二度とないかもしれない。)

(よし、話しかけてみよう。)

僕は、意を決してそいつに話しかけた。

「すいません、もしかして、さんまさんですか？」

『奇怪』

深夜、一人の男が、街灯がなく、月明かりだけがかすかに差し込んでいる真っ暗な道があるいている。

「ザッザッザッザッザッ……」

男は後ろからついてくる足音があるのに気づいた。

「ザッザッザッザッザッ……」

男は恐る恐る振り返ってみるが誰もいない。

「ザッザッザッザッザッ……」

「ははっ、なんだよ。」

男はそれが、自分のリュックの中身が、歩くたびに揺れてだしている音だということに気づいた。

「ザッザッザッザッザッ……」

血の気のない顔をした男が、薄ら笑いを浮かべ、彼の後ろに立っていた。

「ザッザッザッザッザッ……」

「アイロンハート」

二〇XX年、ロボットは私たちの生活に必要なものになった。炊事、洗濯、料理といったほとんどのことが機械化された。人型のロボット、すなわちアンドロイドのことだが、現在では人と見分けがつかないくらい精密なものが開発され、人間に代わる労働をしたり、あるいは一人暮らしの者や老夫婦といった人たちに家族として迎えられているものもいる。ここで誤解しないでほしいのは、だからといって人間たちは墮落してしまっただのかといえばそうではないということだ。確かに多くの仕事はロボットが行っているが、人間にしかできないこともある。ロボットにはできない柔軟な発想や、想像力を持っているし、何より、人間は温かい心を持っている。「喜び」「悲しみ」「怒り」「諦め」「恐怖」といった感情こそが、コミュニケーションにおいて重要なものであり、人を安心させるものなのだ。人は人に癒され、人は人しか愛せないのである。過去に、ロボットを愛し、ロボットとともに駆け落ちしたという人達がニュースで報道されていたが、そのすべてが一年もたたずに戻ってきたらしい。そして皆こう言うそうだ。「人恋しくなった」と。

かくいう僕も、とある人を恋しく思っている。同じクラスの篠原さんだ。正直一目惚れだった。彼女の笑顔を見ている

だけで、僕の心は晴れやかになり、癒されるのだ。

そこで僕はついに告白をする決心をした。放課後、夕焼けの射す屋上に彼女を呼び出した。

「好きです。僕と付き合ってください」とうとう言ってしまった。僕の頬は夕焼けで真っ赤に染まっていた。

彼女は言った。

「ごめんなさい。私はあなたを愛せないの。」

思っていた通りの返事が来た。僕の胸の中に悲しみや怒りや悔しさのような感情が湧きあがってくるような気がした。でもやっぱり涙は出なかった。

家に帰って今日のことを家族に話した。

僕の父さんはすぐ喜んでいた。ノーベル賞も間違いないだろうと言っていた。

だけど僕は憂鬱だった。また僕のような苦しむものが生まれると思うと悲しくなった。だけど僕には父さんを止めることはできない。絶対服従の原理。

僕の腕にはシリアルナンバーが刻まれている。第一五二世代最新型ロボット、通称「アイロンハート」

僕の父さんが付けた名前だ。

人間の居場所

あいつらが憎い

僕の居場所を奪ったあいつらが憎い

家事から仕事、研究に政治

あいつらを作ったのは僕なのに

あいつらより僕のほうが偉いのに

あいつらより僕のほうが偉いのに

僕の居場所を奪ったあいつらが、

機械が、憎い

みんなで川柳コーナー

今週のお題 くキスから始まる色々な機会く

☆最優秀賞

キスマーク かないにばれて いのちなし

(P.N.ヤングマン 会社員 38)

☆優秀賞

キスをして
からだかさねる
いつまでも

(P.N.ダブル役満 大学生 21)

キスなんて
かれこれなんねん
いらずかな

(P.N.みのもんこ 主婦 47)

キスせまり
かれのこころを
いあいぬき

(P.N.きりりん☆ 高校生 17)

キスおわり
かれとちかつた
いっしょうを

(P.N.あなたのとりこ 主婦 24)

キスをした
かえりのみちで
いちどだけ

(P.N.けーた 中学生 15)

キスしたい
かみさまどうか
いちどでも

(P.N.もうすぐ魔法使い フリーター 28)

☆特別賞

キスつって
かえつててんぷら
いただきます

(P.N.釣りマデ 自営業 53)

来週のお題

く恋から始まる色々な言葉く

来週のテーマは恋。みなさんの
色々な「ことば」待っています。

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
A01	人間	17 pt	2 位	4 sp リズムよく歌いたい。歌詞のような今週の表紙です。仕掛けをひそませつつも、並べ順に工夫があって、全体がドラマとしても読める、なかなかに行き届いたつくりでした。 たくさんの共鳴をもらってシルバー・メダル&最多特別賞ゲットです、おめでとう!! 特別賞：単純にきれいだったで賞 うまくはめこめたで賞（あいうえお作文を5つもきれいに続けた）松尾芭賞（センスのよさ。趣がある）きれいにかけているで賞（うまい具合に『きかい』を使っている）
A02	恋愛ロボット	5 pt	4 位	2 sp ダブル・カップルの成立で幸せストーリーになるかな、と期待したのに！ ロボットがいないと恋もできないロンリーフォーティ。哀愁が漂います。あきらめず、次のロボット買おうよ。 特別賞：ひとりよがり賞（かわいそうだなあ……）ぱくりとうさく賞（何かあれに似ている気がする）
A03	マイ・ローテーション	4 pt	7 位	0 sp はぐるまであり、人間であり。そんな寓意だったでしょうか。 フォントを変えた工夫で、全体が単調にならず、静かに地道にがんばってくのさ、というささやかな気概が伝わってきます。それぞれに自分を乗せて読んでいただけたおかげか、気づけばイチオシフレーズ大賞ゲットです。おめでとう！ イチオシフレーズ：「変わり映えのない未来をめざしてコピーしたような過去をひきずり」×2 「僕の勲章」
A04	ブリッジ	3 pt	8 位	2 sp うーん、謎。おかしがほら貝。老人の話がほらだってこと？ 老人の正体は橋？？ そこは解けないけれど、このフシギ老人の存在感はそうとうです。 特別賞：奇々怪々で賞（答えを教えて！）よく分からないで賞（ホラ吹きは分かったが、おかし等謎が多く、奇怪だった） イチオシフレーズ：「四肢で弱々しく体を支える」
A05	気化医療法	29 pt	1 位	1 sp 発想のユニークさに◎。 説明を最小限にして、シンプルにまとめてインパクト大です。 万能の解決法なんて、ありはしないのさという警告メッセージでもあったのでしょうか。

		わかりやすいし、おもしろいし、ユニークだしで、みんなの人気をさらって圧勝でしたね。おめでとうゴールド・メダル!! 次は過去の自分自身がライバルだっっ!!! 特別賞：ノーベル医学賞（画期的な医療法を開発） イチオシフレーズ：「後日全人類が死滅した」×2			
A06	創られた私は目覚めの時になにを思うか	<table> <tr> <td>0 pt</td><td>11 位</td><td>0 sp</td></tr> </table> シチュエーションがよく見えません。人がロボットに改造されたというストーリーでしょうか。（お茶会で作者さんとお話したら、そうらしいです。） 非情なサイボーグっぽい復讐劇の幕開けだ！ギラリと迫力ハードボイルド！ 文章力で感情はしっかり伝わってくるので、あとは状況の見せ方がじょうずになれば無敵なはず。 イチオシフレーズ：「私は私をここに記録する」	0 pt	11 位	0 sp
0 pt	11 位	0 sp			
A07	鬼界	<table> <tr> <td>5 pt</td><td>4 位</td><td>2 sp</td></tr> </table> 針山とかトラパンとか、小ネタをほどよくまぶした語り口が楽しいです。 まったく、鬼にしてみればただの災難ですよ、勝手に正義の旗を背負って攻めてきた桃太郎。大納得の視点チェンジでした。 特別賞：スピノフで賞（サブストーリー、つながりがおもしろい）最後の一行いらぬ賞（惜しい。） イチオシフレーズ：「だからわしは親友を誘って海辺で一杯やろうとした……」	5 pt	4 位	2 sp
5 pt	4 位	2 sp			
A08	歯車	<table> <tr> <td>0 pt</td><td>11 位</td><td>1 sp</td></tr> </table> 夕陽の荒れ地。西部劇風のイメージでしょうか、それともSF？ 長く影を引く大きな機械が目につかびました。何の機械か見せると、より具体的になって読者の共感をもっと誘えます。 特別賞：素朴でいいで賞（ただ回るだけの歯車のさみしさ） イチオシフレーズ：「まわれまわれずっとまわれこわれるまで」×2	0 pt	11 位	1 sp
0 pt	11 位	1 sp			
A09	ある奇怪な出来事	<table> <tr> <td>5 pt</td><td>4 位</td><td>0 sp</td></tr> </table> ホラーですね。 「私」の正体なんだろう？変質者かな、狸かな。 すっかり玩具にされてしまった娘さん、もはや生きているようには見えません。だから「寒くても大丈夫」なんでしょうね。恐いよー。	5 pt	4 位	0 sp
5 pt	4 位	0 sp			
A10	言い訳	<table> <tr> <td>2 pt</td><td>10 位</td><td>1 sp</td></tr> </table> なるほど、かみさまを降臨させての長い長い言い訳ですね。 乙女チックな無邪気さが相手の心をとろかしそうな、なかなかのワザ師です。 特別賞：いいわけないで賞（神様なんていないんだ） イチオシフレーズ：「この頭も。」×2	2 pt	10 位	1 sp
2 pt	10 位	1 sp			
		<table> <tr> <td>17 pt</td><td>2 位</td><td>1 sp</td></tr> </table> テレビのヨコでの世代交代の悲哀。小さなできごとをドラマに仕立てていただきました。	17 pt	2 位	1 sp
17 pt	2 位	1 sp			

A11	ゲーム機の憂鬱	待ってる「君」の正体は誰だろう？ え、オレ？ そんなふうに必要なの共感を誘って、シルバー・メダルです、おめでとう!! 特別賞：ファミコンをやりま賞（家に帰ってゲームやりたくなりました） イチオシフレーズ：「今日も君の帰りを待ってる」×2
A12	奇怪な夢	3 pt 8 位 1 sp 弟から少女へチェンジ。ちょっとうれしい夢、だったでしょうか。 夢っていつも、何かに追われる感じがするもので、そんな焦燥感や不条理さが、うまく表現されています。そう、きっとこれは目覚まし時計が見せた夢！→来週へつづく。 特別賞：今日のオレ賞（オレも奇怪という題を使って乱入したなあ……）

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	心に問う	20 pt 3 位 1 sp シンプルな問かけ表紙。いったん受け取って心のなかで反芻して、それぞれなりの光景を思い浮かべて（たとえば銀行の自動支払機とか？）。ひらがなとカタカナの使い分けがいいですね。 1ポイント差で首位に迫るブロンズ・メダルです、おめでとう！ で、作者さんの答えは、どちらなのでしょう？ 特別賞：扉賞（扉に来るにふさわしい！） イチオシフレーズ：「アリガトウ」「あなたは全く違って聞こえる人ですか？」		
B02	きかい仕掛けの雄弁者	4 pt 6 位 0 sp よってらっしゃい、のセールストークにぐいぐい引き込まれます。聴き手にちょいちょいツッコミを入れつつの場慣れした安定トークですね。 途中で、ああ自分の話をしてるなと分かって、より親しみが湧くキャッチーな組み立て、しっかり聴き手の心をさらっていただきました。		
B03	器械体操	0 pt 11 位 0 sp 心の体操。ラストで分かって納得です。 体操らしくリズムカル。特に、どりゃ！バク転！が好きだなあ。小さな気合いが、ふわっと伝わってきます。 イチオシフレーズ：「ふー・・・」		
B04	イツザチャンス 機会はそこに	0 pt 11 位 1 sp みかんゼリーストーリー。なるほど、小さな恋物語の終焉だったのですね。でも、みかんゼリーは買い続けるんだ、せつないね。 自分のことを「やわな男」と突き放しつつ、でもほら「勝負は二口目からなんだ」とさりげなく励まして。自己愛どっぷりになってしまわない、この抑制の効いたスタンスがいいですね。 特別賞：色々な見解がみえたで賞		
		7 pt 5 位 1 sp 人類史の壮大な流れをレイアウトで表現し、さらに非力・偉大……とキーワードをしっかりと楔に打ち込んだ文		

B05	広い世界、小さな人間	章の連なり。とてもていねいに作り込まれています。ラストだけ「なるべきである」と主張に転調したことで、作者さんのメッセージが沁みるように伝わってきました。 特別賞：レイアウト賞（「広い世界」と「小さな人間」の文字の配置、大きさが工夫してあってよかった）
B06	“越えたい一線”	10 pt 4 位 1 sp 気弱男子の告白トーク。波のようなレイアウトで揺れる思い。たぶんこれ、面と向かって言えてないですね。空想？妄想？これぐらい軟弱なほうが、「まっすぐなまなざし」とだったら、かえって相性いいかな？ すきかい、とお題を使ったユニークさが光ります。そこがヒットしてイチオシフレーズ大賞です、おめでとう!! 特別賞：おしかったで賞（おしかったー同率3位） イチオシフレーズ：「きみはすきかい？」×5
B07	遠方皮肉伝～きかいの章～	3 pt 7 位 1 sp まずはタイトルのフォントに引かれます。本文も語りすぎない静けさがいい。 みんながいっせいに学ぶ者になったことで国が滅びてしまう。第三者視点の歴史家風な語りのおかげで、社会が暴走するときの恐ろしさのようなものが感じられます。 ときにクワノブチって、どこだろう？ 特別賞：なんと申し上げま賞（なんとも言いがたいものがあるから） イチオシフレーズ：「クワノブチ」
B08	機会	1 pt 9 位 0 sp タイトル工夫しよう。 まさかのさんまん。このあとの展開やいかに？おのぼりさんらしい醇朴さが出ています。 まあ、気づいていてもスルーしてあげるのが、都会人のたしなみってものですね、うん。 まさかの「すいません」が大人気フレーズになりました。ぱちぱちぱち。 イチオシフレーズ：「そいつに話しかけた」「すいません、もしかして、さんまんですか？」×3
B09	『奇怪』	1 pt 9 位 1 sp タイトル工夫しよう、その2。 安心したところへ……という、ちょっと怖いショート・ストーリー。謎の男ナニモノ？先が描かれないので、よけいに恐いです。 特別賞：心配賞（そのまんま!!）
B10	「アイロンハート」	21 pt 1 位 1 sp 恋するロボットの初恋ブロークン。でも名前は皮肉にもアイロンハート。それはたしかに憂鬱だわ。 分かりやすいストーリーで運んでいきます。どうやらお父さんが開発者らしいと分かるラストが、やや急ぎ気味で、僕の葛藤をもう少しふくらませたい。 王道ストーリー、堂々のゴールド・メダルです、おめでとう!! 特別賞：AI賞（ふざけずに王道をつらぬいてよかった） イチオシフレーズ：「僕の父さんが付けた名前だ。」
B11	人間の居場所	2 pt 8 位 0 sp だんだん機械に追われていく。産業革命時代の労働者のいらだちのような。 リフレインで焦燥感が伝わります。 打ち壊せ！やっちまえ!!と暴発してもおもしろかった。

		21 pt	1 位	8 sp
B12	みんなで川柳 コーナー	裏表紙は雑誌記事風の楽しさで。 川柳もうまいけれど、ペンネームが凝っていて、そこから読み手を想像してニヤニヤできるので、二度おいしい つくりです。ごちそうさまでした。 18禁ネタからスタートして、ついに（涙の）ゴールド・ メダルですね。最多特別賞のおまけも付きました。おめ でとう!!! 特別賞：アイディア賞（今までにない斬新なアイディ ア） 努力賞（川柳を多く作った才能） おもしろい賞 （P.N.ヤングマンがよかった。頭文字がこってる） 斬新 で賞（斬新だった.勇気をたたえたいです。） 奇抜で賞 （奇抜だから） 『☆特別賞』 賞（新たな可能性を見い出 したので） アイデア賞（工夫されている） たいしたもん 賞（川柳をたくさんつくったから） イチオシフレーズ：「P.N.もうすぐ魔法使い」×2		